へらじるしの強さと和服地との関連（第4報）
焼きべらの布地に与える影響

相模女大家政 ○永井房子　　実践女大家政　平山順之

目的　われわれは、へらじるしの強弱の程度について客観的基準を得ることを検討し、これまでへらじるしの強弱はへこみ率であらわせること、および布地に適合した好ましいへら圧について報告した。今回は、和服縫製の際、絹布類のしるしつけ法の一つとしてよく用いられる焼きべらについて、焼き過ぎたこてを用い布を痛めることをしばしば経験するので焼きべらのこて温度とへら圧が布地に与える影響について検討した。

方法　試料布は、市販の絹和服地5種類、および最近シルキー合成繊維の和服地への利用が多いので代表的なもの4種類をえらび計9種類とした。これらの試料布に焼きべらをおこない、時間経過によるへこみ率、布地の表面および断面の変化、布地の強度などを調べた。焼きべらのこて温度は50、100、150度の3段階、へら圧は1.0、2.5、5.0kgの3段階とした。なお焼きべらは、温度とへら圧を一定の条件でできるように特別に作ったこてによった。

結果　時間経過によるへこみ率の変化は、いずれのこて温度、へら圧においてもへらじるし後の日数が経過するとへこみ率は減少してくる。この減少の度合いは時間経過につれ小さくなるが特にシルキー合成繊維類は減少の度合いが小さい。布地の表面および断面の変化の様相を電子顕微鏡でとらえた結果、こて温度が高くへら圧の大きい試料布においてはかなりの布地の損傷が認められる。インストロン型引張試験機を用いた織糸の強度試験の結果は、試料布によって強度低下に著しい差が認められる。